

第 18 回技術研修会(現地研修会:中和土木事務所管理)を開催

- 2024 年 11 月 26 日(火)13 時 30 分～16 時、奈良県、中和土木事務所、田原本青垣生涯学習センターのご協力のもと、供用中の八尾大橋(中和土木事務所管理)を対象に第 18 回技術研修会を開催しました。
- 奈良県コンクリート診断士会からは 11 名、奈良県道路メンテナンス会議からは 24 名(奈良国道事務所、奈良県、および 4 市 4 町 2 村)、奈良県治山事業促進協議会からは 2 名(奈良県および 1 村)の参加があり、合計 37 名で第 1 部を八尾大橋での現地研修、第 2 部を田原本青垣生涯学習センターでの座学研修として、2 部構成で実施しました。
- 八尾大橋は、2022 年度に実施された近接目視点検において、判定区分Ⅲ(早期措置段階)と診断された合成桁(桁長 41.8m(4 径間)、6 主桁、幅員 6.2m(一部拡幅部あり)、建設年次不詳)で、両耳桁の下フランジとウェブ部分だけがコンクリートで巻立てられた特殊な構造をしていて、主桁の鋼材腐食や床版の鉄筋露出などの変状が見つかったものです。第 1 部では、特殊な構造をしている八尾大橋の外観上の特徴や構造、主桁(耳桁)の防護コンクリート部分のうき、鋼材露出、鋼材腐食などの点検時の留意点について研修しました。
- 八尾大橋の堤防の法面勾配が急で水深が深かったことから、第 1 部では桁下からの近接目視は行わず堤防上部からの目視調査のみとしたため、第 2 部の座学研修前に、近接目視点検時の写真を追加して第 1 部の補足説明を行い、橋梁全体の変状状態についての理解を深めました。そのうえで、耳桁や桁座の維持修繕計画策定時の留意点や鋼橋の沓取替事例などについて研修しました。
- 参加者からは建設当時の設計に用いられた自動車荷重と実荷重との差についての質問や、部分断面修復の仕様についての質問などが寄せられました。
- 奈良県や関係市町のご協力を得て供用中の橋梁を対象に行う現地研修は、2023 年度に引き続いて 8 回目の開催となりました。これは、奈良県コンクリート診断士会の設立目的である会員の技術力向上や地域貢献に大いに資するもので、以降も継続して開催できるように、連携を深めていく予定です。



▲ 現地研修



▲ 現地研修



▲ 座学研修(田原本青垣生涯学習センター)



▲ 質疑応答